文化服装学院 2022 年度 自己点検・評価 内部評価委員による報告書

> 文 化 服 装 学 院 2022 年度 自己点検・評価 内部評価委員による報告書

> > 2023 年 12 月

1 教育理念

● 1-1 学校の教育理念

1-1-1 文化服装学院の教育理念

これまでの「つながりを大切にした共創教育」の理念が明示され、自己点検評価でも各課程の教育に落とし込みがなされ、検証されてきている。「共創教育」が共通認識として浸透し授業や教育の実行につながっていることがわかる。4つの専門分野の教育目標などの方針が明記されており、時代に即した本学院の教育理念としてふさわしい。

● 1-2 課程及び関連科目の教育目標、人材育成像

- 1-2-1 服飾専門課程の教育目標
- 1-2-2 ファッション工科専門課程の教育目標
- 1-2-3 ファッション流通専門課程の教育目標
- 1-2-4 ファッション工芸専門課程の教育目標
- 1-2-5 Ⅱ部服装科の教育目標/Ⅱ部ファッション流通科の教育目標
- 1-2-6 関連科目の教育目標

100周年を前に見直しされた教育理念の理解浸透が進んでおり、明確な指針として各課程や授業の教育目標に反映されている。多様化する業界や時代に即した対応もなされており、改善が進んでいる。検証した結果が反映され、各課程明確な人材育成像となっている。

2 学校運営

● 2-1 法人組織 / 2-2 学校組織

導入したシステムや制度の見直しが行われているが、その結果組織内でどのような成果が見られたのか、 分析や俯瞰した視点での課題の抽出、情報共有や理解、実行につなげる検証が必要である。人事・給与制 度の改革途上であり、課題もみられる。また委員会に関しては会議などで多くの課題を抽出し解決に向け た活発な議論が行われていることが評価できる。

- ・委員会に関しては多くの課題に取り組み検討がすすんでおり、評価できる。
- ・グローバル化については、グローバル市場を俯瞰した視点でとらえ対応する必要がある。

● 2-3 財務状況

教育機関としての現状を把握したうえで、学納金だけでなく助成金収入に対する課題や取り組みがなされている。少ない比率とはいえ、修学支援制度を活用している事で学生生活を支援している事が評価できる。今後は学納金自体の見直しや、教育機関としての経営方針をベースに財務状況を検討していくことが必要。

- ・学園独自の地方ガイダンスや他、様々な取り組む姿勢で学生数の維持が出来たことは評価できる。
- ・教育ローンを受けている学生にも延納の許可を出すなど、各部署の努力が結果と繋がっている。

文化服装学院 2022 年度

自己点検・評価 内部評価委員による報告書

- ・18 歳人口の減少に伴い学生数の減少が見込まれる中で、学校法人として収支均衡への取り組みが大きな 課題である。
- ・人件費の削減は人員補充の抑制だけではなく、各部署で業務内容の見直しを図り、残業の抑制にも努め るべき。

● 2-4 法令等の遵守

- 2-4-1 諸規程の制定、学則、細則、内規等の整備
- 2-4-2 ハラスメント対策の状況
- 2-4-3 個人情報の保護

法令遵守や情報管理に関しての対策が進められ、規定見直しやガイドライン作成の検討がなされている。 学則のデータ化や学生手帳への記載、各種既定の整備が進んでいる点が評価できる。様々な情報がデータ 化され、より情報管理が求められる中での注意点や規程の整備を検討し新たな課題に対する対策も必要が ある。

ハラスメントへの適切な対処、教員への積極的な対応研修が行われている。アンケートの検討や、意識向上に向けた検討がなされているが、今後は実施に向けて新たなガイドラインの作成等対応をしていく必要がある。

- ・規定や学則の見直しが検討され、データ化も進んでいる。
- ・今後もハラスメントに関しては、研修等を実施しながら継続した取り組みが必要である。
- ・多様化する学生への対応を進める中でも個人情報保護の具体的対応を共有していく。

● 2-5 社会貢献等の取組

- 2-5-1 活動への支援状況
- 2-5-2 公開講座・教育訓練等

学友会など、継続的に社会貢献活動は行われており評価できる。今後は社会貢献をバザー売上金の寄付や、外部に向けた講座だけではなく、文化服装学院としての存在意義や社会に対する貢献の方針を明確にし、継続、実行していけると良い。この学校の理念にも明記された「社会貢献」の方針を明確にし、検討していく必要がある。

- ・オープンカレッジの各講座を精査し、受講希望が少なく開催出来ない講座を減らし、多くの受講生を集められるような講座を検討する必要がある。
- ・学校として社会貢献の方針を明確にし、実行していけると良い。
- ・障害者にも目を向けるなど幅広い視点が必要と感じるので、これからも今後の新しい企画に期待する。
- ・服飾学校の特徴を活かした社会貢献が実現できると良い。

3 教育環境

● 3-1 施設・設備

- 3-1-1 教室・講義室・実習室・研究室・事務室の整備、使用状況
- 3-1-2 機材・備品の管理状況

3-1-3 IT 環境の整備・管理状況

教室や実習室の施設や設備に対し、恒常的課題として取り組んでいる点は評価できる。IT 環境に関しては整備が計画的に進められ、システム改修も必要に応じ的確に実施されている。整備は計画に合わせて工事等が進んでいるが、バリアフリーなど今後も計画的工事が必要な状態である。使用状況の把握や学園全体としての使用の調整、使用申請の一元化などを進め資産を活かしていくことが期待される。

- ・クラス数増減だけでなく、1 教室の学生数を考慮し文化学園全体での講義室・実習室の調整の検討が必要。
- ・講義室、実習室の WEB 申請は、大変便利になった。また、学園全体の LAN 導入で学生も教員も作業効率が上がった。

● 3-2 付属機関・施設

3-2-1 教育・学修支援

積極的な学びの場として、つながりを生かしたセミナー開催など学生にとって有益な取組が行われている。実施された取組に対し結果を検証していくことで、単位付与など、より具体的な学生への支援が見えてくるのではないか。

- ・付属機関も学生たちのために成果を上げているが、博物館の来場者数増加など収入に結びつく取組みの 検討もなされるとよい。
- ・博物館所蔵資料での展示だけでなく、ファッション感度の高い来場者増加に向けた企画が必要。
- ・ファッションリソースセンターの外部機関への貸し出しなど、評価できる。
- ・それぞれの施設において独自の企画が立案され、実行されている。

3-2-2 学生生活支援

各施設において、健康や生活面でのサポートが実施され、課題に対するアクション、点検・評価が行われている。新型コロナウイルス対策が影響する業務内容の中で、工夫をしながら対応している内容が記されており、評価できる。

- ・学生寮 新規入寮生の居室確保の取り組み及び、次年度の課題で、在寮生が安心した寮生活を送れるよう対応することなど、学生のことを考えた配慮がなされている。
- ・昼食時の食堂の混雑緩和については引き続き取り組む必要があるのではないか。
- ・核施設において課題に対する点検、評価が行われている。特に医務室においては細かい情報発信などの 対応が評価できる。

3-2-3 研究·対外活動

継続した計測・研究が行われていること、新しい計測方法への対応の試み等が行われており評価できる。 教員が研究員を兼ねているため、研究内容が授業に反映されている点でも評価できる。また障がい者衣料 や企業との研究は教育機関として求められることであり、学園としても存在意義を示すことになる。

- ・計測データ収集と障がい者衣料の活動は本学だから継続的にできる事であり、企業と連携した研究開発 にも期待したい。
- ・時代や年齢によって体型の違い、その計測を長年記録していることは文化学園以外でも活用できる。今 後の市場やバーチャルファッションへの活用など期待したい。

4 学修支援

● 4-1 キャリア支援

- 4-1-1 就職活動支援・就職状況
- 4-1-2 企業開拓・関係強化
- 4-1-3 キャリア教育

学生の気質や個々のキャリアプランに合わせた対応や、多様な就職活動への支援が、支援室、キャリア指導教員、クラス担任とも連携し行われている。個人面談を取り入れ個々への対応を行うことによる就職に対する意識づけ、下級生からの就職指導が充実してきた。企業訪問など積極的な働きかけを行っているが、特徴的な学科や新設コースの求人開拓の等、さらなる取組に期待する。

- ・キャリア教育を支援室・アドバイザー・担任で連携し下級生から行っている事は評価できる。
- ・求人情報発信等は十分に行われている。
- ・アパレルメーカーに限らず、広義のファッション関連企業との関係強化を期待する。
- ・今後も時流の変化と学生の気質を確認しながら、より有効な支援の継続を心がける。

● 4-2 資格取得支援

4-2-1 資格取得率·状況

検定試験の告知・実施、資格取得や合格率向上に向けた取組が適切に行われていることは評価できる。資格取得で得られる学びや、就職やキャリアでのメリットを明確にしていくだけでなく、業界での周知を進める必要がある。

- ・学生へ受験の意義と資格取得のメリットを具体的にしていく必要がある。
- ・資格取得に向けて授業として取り組むなど対策がなされている。
- ・資格取得の意義を学生だけでなく業界へも周知すべく協会と共に努めていく必要がある。

● 4-3 学生相談体制

社会の状況や家庭環境、経済状況などによる心的ストレスを抱える学生が多い中、さまざまなニーズに合わせて柔軟に相談体制を確保、実践している。オンライン活用、学外組織との連携も含めた取組みを行っていることなど、評価できる。

- ・対面・オンライン・電話など、選択できる相談方法は早期相談に繋がっている。
- ・学生の多様化した相談にも対応できるよう、取り組まれている。
- ・相談内容に応じ、アドバイス、関連部署との連携、支援プランの作成等が適切に行われている。

● 4-4 経済支援・健康管理

- 4-4-1 奨学金
- 4-4-2 健康診断

経済的支援が必要な学生も多い中、経済支援における奨学金の取り扱いが複雑化しているが、手続き方法 や書類の取り扱いを丁寧に行っており、評価できる。一方で、提出書類の期限を守らない学生への対応に

関しては、今後具体策が求められる。健康診断についてはコロナウイルス感染症対策をとりながら実施できており、高い受診率は評価できる。

- ・学生、保護者への奨学金制度の理解し易い資料の提供と説明、サポートが考えられている。
- ・健康診断の欠席者にも、担任と連携し日程変更を行い受診率向上の努力を感じる。
- ・高等教育の修学支援新制度および健康診断いずれも監督官庁の指針に即した適切な運営が行われている。

● 4-5 卒業生・社会人への支援

4-5-1 すみれ会 (卒業生の会)

4-5-2 再就職·起業支援

卒業生及び学生の活動・学業支援においては、奨学金制度の拡充によって多くの学生に機会が広がったことは評価できる。すみれ会のプレゼンス向上にも寄与する実践であるため、今後も継続することを期待する。卒業生紹介企画「LINKS」では卒業生がファッション業界で共生、共創し、活躍していることがわかる。一方で、既卒者への就職支援は、外部機関に一任されているが、同窓会として卒業生同士をつなぐような試みがあるとよりよい。

- ・すみれ会の奨学金・留学サポートを受けた学生・卒業生のその後の活躍を調査し結果を検証できるとよい。
- ・すみれ会の組織や活動の活性化に期待する。
- ・卒業生支援や再就職、起業支援など更なる支援の充実が必要。

5 教育活動

● 5-1 学校のカリキュラム編成

5-1-1 文化服装学院のカリキュラム編成状況

時代の変化に対応したカリキュラムの改訂やコースの新設が検討され実施に向けて取り組まれている。学内外とのつながりを活かした教育や、それを実行するための教員の研究や非常勤講師との連携により、業界の現状に合ったカリキュラムへの反映にもつながっている。

- ・非常勤講師や教育課程編成委員会の外部委員の意見を参考にし、カリキュラムの見直しが行われている。
- ・定期的にカリキュラムの見直しを行うことで、常に時代に即したカリキュラムの構築に努めている。
- ・学生の気質の変化、働き方改革との両立などに配慮されたカリキュラム改革の途上である。

● 5-2 課程のカリキュラム編成、授業研究

5-2-1 服飾専門課程のカリキュラム編成状況、授業研究

各科の特色を踏まえた点検評価が行われている。教育効果を上げるためのカリキュラム変更が実施され、 実際に実務効果も上がっている。外部の企画に挑戦しやすい授業編成や授業方針の見直しにより、技術が 向上し応用力が身についた。結果コンテストや検定試験の合格率に反映されている。

・就職に対する意識を早期に高める学生対応が的確に行われている。

- ・課程の教育目標と各科の人材育成像を踏まえ、時代の変化を考慮したカリキュラムの見直しが行われている。
- ・各学年を通してカリキュラムの繋がりを検討し、教育効果を上げている。
- ・学年ごとの課題も明確で結果も出ている。

5-2-2 ファッション工科専門課程のカリキュラム編成状況、授業研究

業界の変化に対応したカリキュラム、各科の特徴や就職先を意識した授業やインターンシップ、コラボレーションにより、実践的学びが行われている。一年次で基礎の学びを徹底し、上級生からはコラボレーションやインターンシップなどで、即戦力としてのスキルを身に着けることができるよう、カリキュラムが作られている。結果、学生の意識向上となり、就職にもつながっている。

- ・各科様々なコラボレーションを行い産学連携に取り組んでいる。
- ・SDGs、サーキュラーエコノミーなどへの意識づけもカリキュラムの中で考えられている。
- ・基礎科の動画配信の活用と補講を計画的におこなったことは、学生のやる気低下を防ぐことに繋がった。

5-2-3 ファッション流通専門課程のカリキュラム編成状況、授業研究

業界の動向や社会的背景に合わせ、柔軟な授業やコラボレーションの取組がなされている。

各科・コースの特徴に合わせ、多くのコラボレーションが行われており、グループワークの方法や協調性、コミュニケーション力を身に付けることも意識し実行されている。時代を意識した授業となっており、就職後に活かせるスキルなども身に付くよう実施されている。

- ・インターンシップや検定受験を授業内でも実施している。
- ・2022年度「FBアワード Y2022」コンテストでの優勝という結果を出している。
- ・各課の特色を考慮し、カリキュラムの見直しに努めている。

5-2-4 ファッション工芸専門課程のカリキュラム編成状況、授業内容

学生の状況や気質への対応、環境への配慮など業界でも求められる意識や知識につながるカリキュラムの 見直しや授業内容の改善がなされている。企業連携として産地での研修や卒業生による特別講義、インタ ーンシップやコラボレーションが実施され実践的学びに繋がっている。

- ・コンテストへ積極的に取り組んだ結果入賞者を出しており、商品化されるものもあり学習効果が出ている。
- ・就職への指導や活動の促進、実践的な経験を積むことにより、就職に対する意識の向上や内定につながっており高く評価できる。
- ・人材像に対応したカリキュラムの検討がされている。

5-2-5-1) II 部服装科のカリキュラム編成状況、授業研究

5-2-5-2) Ⅱ部ファッション流通科のカリキュラム編成状況、授業研究

時間が限られている学生の状況や就職を意識し、対面授業だけでなく動画の活用などコロナウイルス感染 症対策で構築されたノウハウが応用されている。

・服装科は限られた時間内での対面授業と動画配信をうまく活用し、学生の学習意欲向上に繋がったことが評価できる。

・流通科は $1 \cdot 2$ 年が連動してのカリキュラムとなっており、より深く学ぶことが出来きる内容であることが評価できる。

5-2-6 関連科目の授業研究

学科として授業以外での指導が難しい中、オンデマンドやグーグル・クラスルームでの情報提供など理解 度の違いや留学生への配慮がなされ学習効果を高める工夫をしている。学校の施設(博物館、図書館、リソ ースセンター)の活用、研究開発事例を授業に展開するなどし、教育効果を高めている。

- ・各教科共に学生のレベルや意欲を考慮し工夫した授業運営となっている。
- ・関連科目ごとに授業内容が構築されており、カリキュラムの改善に取り組んでいる。

● 5-3 学外授業

- 5-3-1 学外実習の状況
- 5-3-2 インターンシップの状況
- 5-3-3 海外研修の状況
- 5-3-4 コラボレーションの状況
- 5-3-5 コンテスト活動の状況

コロナウイルス感染症対策をとりながらも教育効果を考え、様々な学外授業を実施できたことは評価できる。インターンシップ先の新規開拓を積極的に行い、参加学生の増加につながっている。また、研修後の情報収集が行われており、2023年度の状況改善が期待できる。コラボレーションについては、コスト面、著作権の面などにも留意して相手企業と交渉しながら進めている。

- ・コンテスト受賞数の減少の原因を探り対策を取る必要がある。
- ・インターンシップから就職に繋がった例が増えるよう、学生の希望企業・職種の開拓を継続していく。
- ・新入生対象の校外研修 I では、入学後の春におこなわれ学生同士のコミュニケーション力が深まったと感じる。
- ・研修旅行等においても細やかなコロナ対策でスムーズに実施できたと評価する。
- ・就職に直結したインターンシップの実現を期待したい。

● 5-4 学校行事

5-4-1 行事の状況

コロナウイルス感染症対策をとりながらもオフラインイベントが実施でき、クラスターも発生せず行うことができている。課程を越えた学生同士の交流は、本校の強みでもあるため、機会をつくっていくことを 今後も積極的に提供することを期待する。

- ・文化祭などのオフラインイベントが増えた事で、参加学生の責任感やコミュニケーションの学びにつな がった。
- ・様々な行事は、学生時代の大事な思い出として実施することが望ましい。コロナウイルス感染症対策を とり実施できている。
- ・コロナ禍においても、出来得る限り行事を中止することなく実施に取り組んだ。

● 5-5 課外活動

5-5-1 学友会 (在校生の会)

学生の自主性を重んじながら、適切な活動が行われた。学友会の学生による主体的に実施される社会貢献や交流は結果も出しており高く評価できる。課外活動の中でリーダーシップの育成なども含め学友会活動が活発に行われた。

- ・学友会活動をとおし、他科の学生との交流や学生主体の活動に結びついている。
- ・学生の自主性を促しながら様々な分野での活動もし、学友会の活性化につながっている。

● 5-6 教育・成績評価

通常授業体制に戻ったことで対面でのメリット、オンラインでのメリットの双方をうまく活用できている。特に classroom などに資料や動画を上げることにより課題が遅れていても個々に確認し進めることが出来て良い。

- ・試験実施により学習の復習や確認になるため、感染対策を行いながら実施できたことは評価できる。
- ・コロナウイルス感染症対策が十分考えられていた為、通常授業に戻ったが安全に授業が進められ学習効果が得られた。

● 5-7 退学者への対策

それぞれの課題についての現状把握はできており、評価できる。一方で、退学者への対策として継続して、具体的な対応をしっかりと講じていくことが求められる。現状把握をするために当事者や関わる教員からの情報収集がなされているが、客観的に状況を把握し対策するべき課題の抽出も必要である。

- ・単位の取得方法やカリキュラムの大きな検討が必要。
- ・学生が気持ちの決定をする前に気軽に相談が出来るシステムを構築していけるよう検討する必要がある。
- ・コロナウイル関せ印象の影響や、学生気質の多様化に合わせた対応策が求められる。

● 5-8 学生募集

5-8-1 学生募集の状況

5-8-2 広報活動

入学試験のWeb 出願で業務の効率化が図れた。経済的理由で入学を断念するような状況を減らすため、文部科学省高等教育修学支援制度の周知と募集活動を引き続き行う必要がある。現状行われている広報活動は SNS など細かく実施対応できており、SNS コンテンツを活用し在校生目線での文化服装学院の魅力を発信している。

- ・高校訪問をした結果が見られたため、今後も訪問校を増やすなどの検討が必要。
- ・学生募集の取り組みの記載は評価できる。
- ・今後、学生数確保のための戦略を具体的に考える必要がある。

● 5-9 国際交流

- 5-9-1 留学生の受け入れ状況
- 5-9-2 合作校・提携校の状況
- 5-9-3 外部団体・機関との連携

海外との取組みにおいて積極的な活動が行われており、評価できる。合作校への出張授業再開が出来なかったが、オンラインの活用・現地教員協力のもとできる限りの対応ができた。また、海外企業・ブランド

文化服装学院 2022 年度 自己点検・評価 内部評価委員による報告書

とのコラボレーションや特別講義を行うことにより、自分を取り巻く環境からの視点だけではなく、海外からの視点でデザインや物事を考えるきっかけにもなり有意義な体験だったと評価できる。日本の少子化がさらに進む中、留学生対策や提携校への提供だけでなく、日本人学生のグローバル教育への注力が、入学者数の課題解決や、今後の文化学園のあり方を考える上で必要となってきている。

- ・留学生の適切な管理だけではなく、留学生を増やす取り組みも必要。
- ・海外デザイナーとのオンライン対談が定期的に開催されることで学生のモチベーションに繋がる。
- ・国際交流センターとの連携を深め、学生の参加を促す方法を更に考えて行く。
- ・コロナ禍で中断していた海外との様々な取り組みが再開されたことに伴い、学院での参加機会も増加した。

自己点検·評価委員会 内部評価会議 内部評価委員(敬称略·順不同) 相原 幸子 門井 緑、吉村 香、早渕 千加子、朴澤 明子、野原 美香、朝日 真 浜田 法子、小林 克也、渡井 邦重、吉田 和代 以上